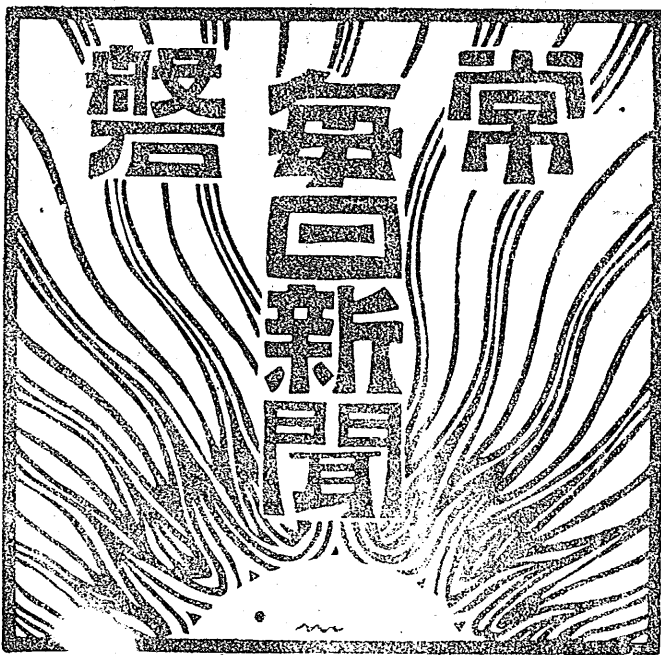


日刊 印刷部編纂人 川崎文台 本社印刷部 (電話六三〇番) 常務理事 川崎文台



刊夕日四十月一十

定価 一部金五銭 二部金十銭 三部金十五銭 四部金二十銭 五部金二十五銭 六部金三十銭 七部金三十五銭 八部金四十銭 九部金四十五銭 十部金五十銭 十一部金五十五銭 十二部金六十銭 十三部金六十五銭 十四部金七十銭 十五部金七十五銭 十六部金八十銭 十七部金八十五銭 十八部金九十銭 十九部金九十五銭 二十部金一百銭

平名産 **メアードフ**

薬用生ブド一酒を澤山混入して製したる薬養品なり

佐藤ブド 一酒店

久保田 久保田

バンヤ

吉例恵比壽 講大賣出し

十月十二日より三日間

十月十四日まで

銘仙 五圓五十銭ヨリ

其巻 モスリン着尺

御祝儀物數々

尙ほ 福助足袋製

今因特に當地代理店と對抗し皆々様の御便宜供し申候

世界に冠たる優良品を多量に製造する 福助足袋

會社製品

黒朱 四十七銭

白キヤラコ 三十五銭

絹天足袋 四十七銭

平町三丁目

中野呉服店 (電話六十七番)

揃ひました!

いろいろな冬の洋服が

一段に二割乃至一割安

立襟上下 拾圓位ヨリ

脊廣三組 三圓半位ヨリ

オーバ 六・七圓位ヨリ

其他變つたいろいろな冬の洋服が澤山揃ひました

なかや洋服店

平町二丁目(電話二〇三)

毎度御引立の程難有御禮申上げます

扱て此度新しい試みとしてお客様御自身よて御隨意に御好みの品を揚げながら温かいものを召し上らるゝよう

お座敷天ぶら

を始めました。どうぞ御越しの上一度御ためしの程只管御願申上げます

大蒲焼 大和家

割烹

南町(電話十四番)

町平 吉田眼科醫院

脚氣、淋毒、梅毒、神経痛の

(徳島縣、當金屋の家傳の大妙藥)

退痛散 特約店 大平屋藥店

平町一丁目 電話六四二番

總て藥劑は服用せずして其効を論ずるを得ず敢て壹週間の服用を奨め以て其實驗的證明を俟つのみ。

親切 確生 實命

住友生命の五大特長

- ▲經營者ノ確實ナル事
- ▲責任準備金ノ多キ事
- ▲住友生命ノ積立金ハ我國テハ第一位ヲ占メテ居リマス
- ▲保費料金ノ低廉ナル事
- ▲親切ニシテ寛大ナル事
- ▲配當金ノ多キ事

住友生命ハ資本金ニ對シテ配當率頂キマセン

カラ利益ハ全部契約者ノモノニナリマス

絶大ナル信用——確固タル經營——全クノ契約者本位

平代理店 金成泉一郎

平町材木町 (電話七〇四番)

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平南町(電話一七〇番)

君は、いゝ型の洋服を求めたね!!!

眺かへ?

いや君、コレはいや君、コレは例の「ソレ」

正札堂

平町停車場通

◎財界不況ニ伴ヒ

十一月二日ヨリ 値下斷行

カツレツ 二十銭

カレイライス 二十銭

メンチカツ 二十銭

ハヤシビフ 二十銭

ポークライス 二十銭

御酒 一本二十銭

右品出前モ同様

平町二丁目 (電話六二〇)

西料理 御料理 カフエータヒラ

名特 入提 手供

吉田屋 染工場

福島縣平町五丁目

(電話五五八番)

(振替台五三二八番)

徒弟入用 十三四歳位ノ者四五名

高久病院

院長 醫學士 高久 忠

副院長 新潟醫學士 赤羽 清

藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

平町田町 電話五二三番

飲むとすぐキク

クノ一散

齒痛、神経痛、頭痛の特効藥

平町各藥店に販賣す

試みられよ、

常盤論壇

景氣の根柢 (6)

經濟學博士 太田正孝氏述

郷に行つては郷に従へといふ諺があります。英吉利人などは何處へ行つても横着にも自分の國の言葉を使つて居る。併し獨逸人は英國へ行けば英國の言葉を使ふ日本へ來れば日本の言葉を使ふ。さうして日本に於て例へばコップに就て言へば斯う言つた形が非常に氣に入られて居ると知れば、さう云ふ形の、さう云ふ模様の値段の其の位の品をドン造つて送る。又日本へ來て居る獨逸人はそれをド

ン、本國へ報告する。全く三井、三菱の支店へ來てゐて材料を我國へ送るので一寸遣口が違ひます。斯様にして農業と工業とは五十年間にドン、進んで行つたのであります。併し乍ら自分より上に出て居る國があつた。それは英吉利である。けれども獨逸民族の歴史を考へて見れば如何にも強い。力のあるものは世の中を征服して行つても宜いと考へた。人間にあつて悪いものは自惚れと云ふ根性でありまして。斯の如き事が全く獨逸の國一般に擴がりましたが爲に、さうとう終ひには無謀にも世界を

對手とする戦争を起すに至つたのである。其の因はと言へば經濟戦争であります。無論獨逸は能く戦ひました。感心な點もありませんがどうも敗けました。敗けた原因には色々ありますが、戦が唯だ強ければ何處迄も勝てる云ふものではない。例へば腕力があるからと言つて皆様の顔を張り倒すと云ふ理窟はない。戦ふに資源と云ふものがなかつたと云ふ事柄は、私は世界戦争を回顧する毎に又桃太郎の言葉を憶出す。桃太郎の一生の仕事は敵と戦ひ而して彼は氣は優しくて力持である。

(つづく)

私はどうも.....

口下手なのでと

増築案の説明が出来ぬ 佐藤助役の釈明

平町各區長が伏見町長不在の爲め佐藤助役に小學校増築案の説明を求めた所「自分にはよく判らない」として説明を拒んだ爲め各區長は憤慨し たこの本紙の記事に對し佐藤助役は釋明して次の如く語つた「學校増築案は町是調査會に於て目下審議中のものであつて未だ町會へ上提する迄の段取りには進んで居ない、斯かる重大案件を町會に附議しない以前に外部に向つ

相當注目をひく

三署長秘密會議

電燈料値下げ運動及び 犯罪取締の連絡

四ツ倉、植田の兩警察署長は十一日午後三時頃平署をおとづれ水谷、後藤、猪狩の三署長が平署樓上に於て秘密會を開催した

會合の

内容は極秘に附されてゐるが仄聞するところによつて平署を中心として四ツ倉署、植田署とは密接な關係がある犯罪の防止、労働爭議取締等につき相互の連絡を十分に取る必要があるのでは打合をなし今後とも機會あるごとに三署長會を開くとの事であるが本縣内で郡山を

年賀狀取扱

十一月も既に半ばとなりそろそろ年賀郵便の準備期も近づいて来たが明年は諒闇明け最初の新年となつて不

可成り苦しい 各炭礦の内幕

なかにも磐城炭礦では 大緊縮の方針.....

常磐炭礦界は引續く財界不況の影響を受けて各炭礦共緊縮方針をとり炭礦の資本系も漸次移動しつつあり將來此の不景氣が永く續くものなら常磐各炭礦の經營も變更されるに至るであらうと豫想される程である現に古河炭礦の

一部は

小田吉次氏に譲渡され、磐城炭礦の株も三井系の手に大半が移りつゝあるので磐城、入山、

景氣挽回策も加はつて非常な激増を來すものと見られて居り通信省當局において對策講究中であるが例年の年賀狀特別取扱開始の十五日は本年はまだ諒闇中でよし年賀狀そのものは一月になつてから配達する

木賃宿の呑たくれは

山伏姿の拘留囚

石城郡湯本町の木賃宿へ泊り込んだ舉動不審の呑たくれ自稱仙台市連坊小路清水新吉(三七)は既記の如く平署にて浮浪罪として拘留處分の上仙台警察署へ身元調査を照會したる結果同人は窃盗前科三犯の肩書を有し八月六日午前九時仙台連坊小路九四鐵道員郷家治治方の留守に忍び入り銚仙辨男羽織お召女袴帯類(見積り九十圓)を窃取し又數日後元茶畑二三製菓業平田金太夫方の留守宅を襲ひ篋筒の鎖鑰を破り重ね紋付外十餘點(見積り三百五十圓)を窃取し早くも風を喰らつて逃走したる強か者にて同人は常

強か者捕る

婦女暴行末遂

東白河郡高野村大字大梅生れ當時住所不定金田重藏(三七)は十三日朝平署の青田部長刑事に捕はれ嚴重なる取調を受けるゐるが去月中茨城縣久慈郡大子町某料理店から價格百圓位の自轉車を窃取して逃走した外東白河郡近津村大字八槻旅人宿武藤鐵太郎方から無錢飲食をして逃走の歸途同村金澤に暴行を加へんとして果たさざりし罪狀等を自供して



家庭欄

たさつマヨ

ネーズ相へ おさつを二分角位の拍子木形に切つて柔かにゆで液に上げて水氣を切つて次ぎのやうにして拵へたマヨネー

官行木炭品評會は

磐城訓盲院にて舉行

東京營林局管内官行木炭品評會は去る八日から十二日迄平町公會堂で開催これが褒賞授與式は十三日午前十時から平町磐城訓盲院において舉行出品點數五百八十

一點中審査長東京營林局利用課長石原技師審査の結果左のもの入賞され、賞状並びに賞品を授與した當日

熱辯を揮つた

長橋の青年達

既報平町長橋青年分團主催辯論會は十二日午前六時より性源寺に開催、各辯士は左記の演題下に夫々熱辯を揮つた

△開會の辭、川崎文治△夕日、吉村勇△若人の叫び、遠藤正雄△青年訓練所に就て、關内庄平△一言申上ます、酒井賢司△所感、賀澤恒保△私から見て、今宮政衛△諾か否か、植田憲太郎△ブラジルの視察談、岡部達吉△閉會の辭、小菅榮之助

園ゴ戰慘敗

昨日對局結果

平町及磐城會の第二回園基對抗試合は十三日午前十時から磐城宮俱樂部に開催さ

募集

文藝其他投稿を募集します

れ一等賞は平軍の山田文一氏が獲得したが大勢に於ては二十六對十八にて平軍惨敗して午後五時半閉會した油を落しながら右手で絶えずかきまてゐますと黄味と油がとけて固いソースが出来ます油がおよそ一合ほど入りましたら止めて熱いスープが又は湯二勺を加へて手早くませ酢少々で程よくといひ用ひますかきませる時は時容形泡立器が最もよろしいのです

理髮會へ出席

郡山に開かれる縣下理髮業大會へ平町から列席する代表者は石崎幸一、宮川幸吉の兩氏である

農産褒賞授與

石城郡上遠野、入遠野兩村農會主催で二十一日から三日間上遠野小學校に農産物品評會を開催の筈であるが褒賞及賞品授與式は二十三日會場に於て行ふと

平町人事

▲死亡 △平町南町一九 當時小名濱町浦井ユキ(七七) △柳町一六 菊地仙三郎(二三) △長町橋九 若菜半次郎(五一) △新川町三二 高野マツエ(四四)